

**問** 障害者差別解消法が施行され、障がいのある者とないが可能な限りに学ぶインクルーシブ教育のシステム構築が喫緊の課題である。どのように考え取り組むのか。

**答** 障がいの程度により、国が例に挙げている指導のいずれかを選択できる柔軟な仕組みを整備している。特別支援学級の子も親学級で共に学ぶ等しており、さまざまな場合でよりよい教育や支援が受けられるよう進めたい。

**問** 畝傍南小学校、畝傍中学校で行われている通級指導教室の現状は。

**答** 畝傍南小学校は、28年度が自校7名、市内他校34名の計41名、29年度が自校6名、市内他校28名、他市町村1名の計35名が通っており、教諭2名が配置されている。畝傍中学校は、28年度が自校13名、他校5名の計18名、29年度が自校24名、他校3名の計27名が通っており、教諭1名と時間講師1名が配置されている。

**問** 中学校の通級人数が増えているが、自校、他校合わせの待機生徒数は。

**答** 自校の1年生が5人、他校の待機が3人である。

**問** 自校と他校が同様の通級生徒数でない理由は。待機生徒が8名出ている理由は。

**答** 各学校の委員会で通級が必要か判断しているが、自校に通級学級がある場合は、分担実施する傾向がある。自立と社会参加に向けて、支援をする優先順位から、2年・3年生を通級学級で受け、1年生は特別支援の教諭や担任が対応している。

**問** 通学できないため、他校の生徒が通級できないこともあると聞いているが。

**答** 他校から通級学級への通学方法は、安全面から保護者による送迎を基本にお願している。高校進学に向けての練習を兼ねて、本人が電車で通うケースもあり、市が電車を補助している。

**問** 通級指導学級の追加、教師の加配を早期に実現するよう、県に強く要望するのか。

**答** 通級指導学級の設置は、県教委が判断している。市独自の設置は厳しいが、特別支援を必要とする児童生徒や保護者のため、要望したい。人員増は要望し続けたい。

**問** 実態をつかんだ上で要望すべきと考えるが、通級が必

要と思われる方の実態調査は。

**答** 教育委員会はデータを持っていない。学校は校内委員会等があるので、把握していると思う。

**問** 適切な支援と指導を行うため、個別教育支援計画、個別指導計画は実施しているのか。作成に向けた研修など実施しているのか。

**答** 発達障がい児に学校が十分対応できるように、子ども総合支援センターが学校や担任への支援などを行っている。また、個々の児童生徒に対し、個別の教育支援計画を作成し、保護者と共有している。校内でも個別指導計画を作成し、校内での連携を図っている。

**問** 通級では個々に合った教材が必要である。教師が自費で必要なものを購入することもあると聞くが、普通と通級のクラスを分けて予算措置はできないのか。

**答** 消耗品費等の日常必要な予算は、両小中学校とも通級学級分として通常クラス分にも上乗せして配当している。また、通級学級で備えたい設備等には、開設時に大規模な整備を実施している。学級運営の中で、必要なものが生じた

場合は、随時聞き取りを行い、対応を検討したい。学校で必要なものを個人で支出しないよう、しっかりと対応したい。

**問** 課題と解決に向けての取り組みは。

**答** 中学校区の地域ケア会議の課題は、市レベルのケア会議につながり、地域の課題、解決策など総括的な方向性を決める会議を定期的に開催する。市役所内で地域の困り事の共通認識を持ち、課題を解決するため、部局を超えて横断的な取り組みを29年度から行う予定である。

**問** 横断的な取り組みとは。

**答** 29年8月に実務担当者による1回目のワークショップを開催する予定であり、課題となる買い物支援等を関係課と協議する予定である。今後、実務担当者レベルでワークショップを行う。

**問** 生活支援の中で、高齢者の交通面や、買い物支援などの現状は。

**答** 28年度は、買い物支援を中心に小学校区単位でも地域ケア会議を開催した。配送など買い物支援サービスを実施している店舗の情報を集め、



子ども総合支援センター

## 檀原市の新しい交通網

**問** 高齢者などを中心に食料品の購入などに不便や苦勞を感じる方が増えている。地域包括ケアシステムの生活支援の観点から、高齢者の交通の不便さなどへの考えは。

**答** 地域包括支援センターブランチを開設し、30分以内に必要なサービスが受けられると設定した中学校区のブランチを中心に、各地域の問題解決に向けて地域ケア会議を開いている。高齢者が生活する

上での困り事の洗い出しや解決に向けての話し合いを、ブランチの自治会や民生児童委員等と地域の方を交えて行っている。

**問** 課題と解決に向けての取り組みは。

**答** 中学校区の地域ケア会議の課題は、市レベルのケア会議につながり、地域の課題、解決策など総括的な方向性を決める会議を定期的に開催する。市役所内で地域の困り事の共通認識を持ち、課題を解決するため、部局を超えて横断的な取り組みを29年度から行う予定である。

**問** 横断的な取り組みとは。

**答** 29年8月に実務担当者による1回目のワークショップを開催する予定であり、課題となる買い物支援等を関係課と協議する予定である。今後、実務担当者レベルでワークショップを行う。

**問** 生活支援の中で、高齢者の交通面や、買い物支援などの現状は。

**答** 28年度は、買い物支援を中心に小学校区単位でも地域ケア会議を開催した。配送など買い物支援サービスを実施している店舗の情報を集め、